

奈良公園の整備について

平成26年7月30日

奈良県まちづくり推進局奈良公園室

I. 若草山の移動支援施設について

(1) 若草山移動支援施設に係る検討経緯

(2) 県に寄せられた提案

II. 吉城園周辺地区・（仮）登大路ターミナルの整備について

I. 若草山の移動支援施設について

(1) 若草山の移動支援施設に係る検討経緯

1) 若草山の特性と法規制

● 世界遺産隣接地としての特性

- 若草山は世界遺産である春日山原始林に隣接しており、世界遺産の緩衝地帯（バッファゾーン）に指定されている。

● 歴史的な特性・神聖性

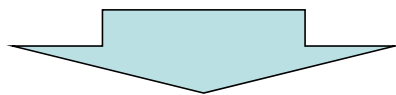
- 古来から和歌に詠われるなど、奈良公園におけるシンボルとなっている。
- 昭和20年、30年代では観光客で賑わっていた。（参考資料1）

● 若草山の価値を構成する要素

- 自然資源、歴史文化資源、公園資源など、各資源があり、それらが融合した独特の風致景観を形成している。（参考資料2）

● 若草山周辺の法規制

- 史跡名勝天然記念物（文化財保護法）
- 歴史的風土特別保存地区（古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法）
- 第1種風致地区（奈良市風致地区条例）



若草山の自然・歴史文化・公園の資源を守り、活かしたにぎわいづくり

奈良公園の抱える課題を解決し、奈良公園を名実ともに「世界に誇れる奈良公園」にすることを旨す

【奈良公園の観光誘客の現状の課題】（参考資料3）

- 1300年祭以降、宿泊客や観光客については伸び悩み、修学旅行についても減少傾向。
- 季節別では、春秋に比べ夏冬の来訪者が少ない。

【奈良公園の観光誘客としての取り組み】

- 適切な案内や情報発信などもてなし環境の充実。
- 滞在型観光の促進（奈良公園深奥部までの誘客）。
- オフシーズン対策としての取り組みの強化。
- 観光地としての魅力向上に向け様々な資源を有効活用。

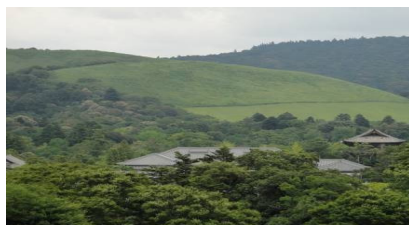
【若草山周辺での取り組み】

- 鉄道駅からのアクセス性向上のための「ぐるっとバス」の運行。
- 周遊環境や利便性向上のための歩道、トイレなどの環境整備。
- 山焼きや若草山ミュージックフェスティバルなどイベントの支援。

イベントの開催や施設の整備など様々な取り組みを行っているが、若草山の来訪者の減少傾向が止まらない。

【更なる魅力向上に向けた取り組みの具体的な提案】

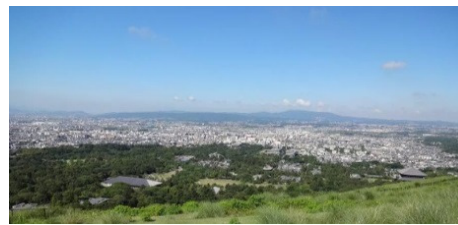
- 奈良公園の三大展望スポットとして位置付け、魅力の更なる向上
・誰もが楽しめる若草山一重目眺望の魅力を発掘



① 県庁屋上



② 若草山三重目



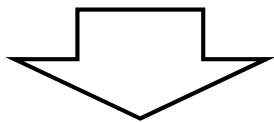
③ 若草山一重目

若草山
周辺地域の
活性化

3) 若草山にぎわいづくりの検討経緯

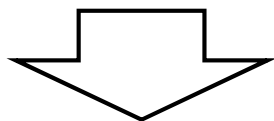
H25年7月31日 第5回奈良公園地区整備検討委員会の開催 : 「奈良公園基本戦略」の進捗状況について

- ・県が「若草山一重目への移動支援施設としてモノレール案を提案。また、周辺での環境影響調査を実施していることの報告を行う。
- ・委員会からは、バリアフリーや景観をクリアするという観点ではなく、必要性についてしっかり考え、「奈良にとっていいものか」という観点からの検討が必要との提言をいただく。



H25年11月8日 第6回奈良公園地区整備検討委員会の開催 : 若草山周辺地区

- ・県は、若草山のこれまでの整備の状況や入山者数減少の推移を整理し、若草山周辺地区のにぎわいづくりには、若草山一重目眺望の魅力を発掘することが重要であり、誰もが眺望を楽しめるための手段として、モノレールについての可能性の検討を進める必要があるとの考えを示す。また、観光客からのアンケート結果や世界のモノレールの事例などの資料を提供する。
- ・委員会からは、モノレールを用いた眺望スポットの活用については、観光オプションとして有意義であるが、景観、環境、名勝、世界遺産の価値の担保などの課題について、関係機関と協議し、いろんな方の意見を聞きながら進めて欲しいとの提言をいただく。



H26年2月10日 第7回奈良公園地区整備検討委員会の開催 : 若草山周辺地区の進め方

- ・県は、景観や文化財を所管する機関と相談を始める旨を説明。あわせて、景観、環境などの四季の調査を行っている「環境影響調査」の中間報告を行う。
- ・委員会からは、若草山のにぎわいづくり及び地域の活性化について、若草山に魅力の一つが増えるということは観光の間口が広がるとの意見をいただき、今後は、若草山のにぎわいづくりに軸足をおいて、優先的にじっくりと慎重に議論をしていく方針が示される。
また、若草山の利用についてモノレールだけでなくいろいろなオプションを検証し、にぎわいづくりについてさまざまな意見を聞きながら進めることが必要との提言をいただく。

1. 若草山の移動支援施設について

(2) 県に寄せられた提案

県に寄せられたご意見・ご提案

○ 施設整備関連

- ・トンネル(地下道)の整備
- ・地下道及びエレベーターの設置
- ・南側登山道付近にエスカレーターの設置
- ・南側登山道付近に木々のトンネルを整備し、その中にモノレールを通す
- ・南側登山道付近にモノレールの設置
- ・南側登山道付近に人カロープウェイの設置(十津川村にある野猿のようなもの)
- ・南側登山道付近に簡易スキーリフトのようなものの設置

○ 構造物のない移動支援関連

- ・牛車による移動
- ・馬車による移動
- ・駕籠による移動
- ・電動アシスト人力車の運行
- ・ベロタクシーの運行
- ・バスの運行
- ・(人力車の費用補助)
- ・(電動車いすの貸し出し)

○ 異なる視点からの活性化

- ・芝生広場から気球によるフライト

導入の可能性の検討

○ 施設整備関連

最も土地の改変が小さく、安全性が確保されると考えられるもの

- ・南側登山道付近に木々のトンネルを整備し、その中にモノレールを通す
- ・南側登山道付近にモノレールの設置案



○ 構造物のない移動支援施設関連

地形を考慮し、移動の実現可能性を有するもの

- ・バスの運行案



○ 異なる視点からの活性化

最も土地の改変が小さく、話題性が高いため、にぎわいづくりに寄与すると考えられる

- ・芝生広場から気球によるフライト案



2) 施設整備関連の提案の概要・事例

○ モノレール

【概要】一本の軌条により誘導されて自走する施設。

【長所】・施設が簡易 ・環境への影響が極力少ない構造も可能 ・車いすでの利用が可能

【短所】・輸送能力が低い(坂道や階段に対する補助施設の位置づけのため)

【事例】奥祖谷観光周遊モノレール(全長:4600m、定員:2名)



○ ケーブルカー(ロープウェイ)

【概要】山岳の急斜面などを、ケーブルで繋がれた車両を巻上機等で巻き上げて運転する鉄道。

【長所】・輸送能力が高い ・雨天時にも快適に利用可能 ・車いすでの利用が可能なものもある

【短所】・施設規模が大きくなる ・外国からの取り寄せとなり費用の高額化が想定される

【事例】祖谷温泉ケーブル(全長:250m、定員:17名)

吉野ロープウェイ(全長:349m、定員:28名)



○ リフト

【概要】吊り下げられたイス式の搬器を使用して旅客を運送する策道。

【長所】・輸送速度は比較的高い ・設置規模が比較的小規模となる

【短所】・景観を阻害する可能性が高い ・風の影響を受けやすい ・車いすの利用は困難

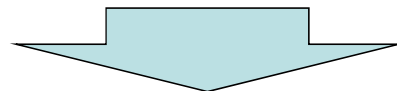
【事例】剣山登山リフト(全長:830m、運送能力:420人/h)



○ その他

・エレベーター/エスカレーター ⇨ 大規模な土地改変が必要であり、景観・環境への影響が非常に大きい

・ムービングベルト ⇨ 安全上の問題等から設置は不適切



「モノレール」を提案:環境へ与える影響、景観の変化が最も小さい

3) 構造物のない移動支援関連の提案の概要・事例

○ ぐるっとバスの路線延長によるバス運行案

【概要】移動支援機能の導入として、ぐるっとバスの運行を実施。広範囲の移動を円滑にするため、H23年から周遊バスの本格導入を開始。H23年に奈良公園ルート、H24年奈良公園ルート・平城宮跡ルート、H25近鉄奈良駅・JR奈良駅まで周回。

《運行事例》

【諸元】奈良公園

各路線1回100円

【形態】主に土日祝日、イベント開催時に運行。

基本的には9:00～17:00の運行。

イベントの開催に併せて夜間運行も実施。

【特性】環境への影響として、排気ガスによる大気汚染の影響が考えられる。

《若草山に適用する場合》

○ 一重目までバスを運行する場合、新若草山ドライブウェイから管理者用通路を活用することで、到達できる。



○ 熱気球によるフライト案

【概要】暖めた空気により、浮力を得ることで飛行する気球の一種。日本で最も多く使われているもので、球皮部分の体積が2000立法メートル前後のもの。膨らませた状態で横幅が15m、高さはバスケットの下から球皮のてっぺんまで約20m(マンションの7階ぐらいの高さ)。定員は2、3人。

《運行事例》

【諸元】長野県 白馬村 白馬ライオンアドベンチャー

(5分間)大人2400円、子ども1600円、3歳以下無料、愛犬500円(別途安全管理費100円/人)

【形態】前日までの完全予約制。基本的に早朝の運行。イベント等で夜間フライトも実施。
一般的な2~4人乗りの熱気球一式で約500万円程。地上30メートル。

【特性】気温、天候に大きく影響を受ける。

《若草山に適用する場合》

○ 芝生広場から、気球によるフライトが可能。話題性が高く、イベント性が強い。



若草山の歴史

・昔から時代の要請に応じてにぎわいの場となってきた

- 昭和22年：宝探し
昭和23年：宝探し、登山競争
昭和24年：グラススキー、宝入りみかんまき、ウサギ生捕り競争
昭和25年：若草山テント村、賞品付き花火打上げ
昭和26年：宝入りみかんまき、賞品付き花火打上げ
昭和27年：登山競争、芝生パチンコ
昭和28年：飛行機による賞品ビラまき、大仏スマートボール、模型飛行機大会、仕掛け花火
昭和29年：グラススキー、飛行機による賞品ビラまき、模型飛行機大会、仕掛け花火
昭和30年：飛行機による賞品ビラまき
- 昭和63年：なら・シルクロード博覧会
会場撤去時に春日野園地を整備
- 平成22年：平城遷都1300年祭
平成23年：山麓店舗前改修、登山道、北側トイレの整備
平成25年：ぐるっとバスの若草山麓までの運行

若草山のにぎわいの変遷



昭和20年代後半



昭和28年

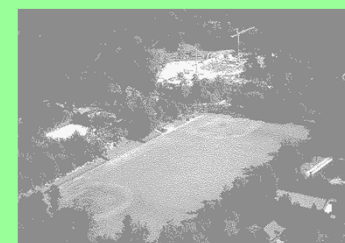


昭和32年



昭和35年

春日野園地の変遷



春日野グラウンド



昭和63年
なら・シルクロード博覧会
春日野会場



春日野園地

奈良公園を代表する眺望景観を形成する要素であり、名勝の価値を基底する若草山の景観を継承するため、地形・植生等を含めて総合的に適切な保全・維持管理を図る。

個別要素の保存管理・活用の主な考え方

自然的要素に関わる考え方

- 南都八景に数えられる「三笠山の雪」など、奈良公園の著名な眺望景観を構成する若草山の地形および植生の維持のための適切な保全、再生を図る。
- 水谷川沿いの自然林は特別天然記念物春日山原始林として、その適切な保全を図る。

歴史的・文化的要素に関わる考え方

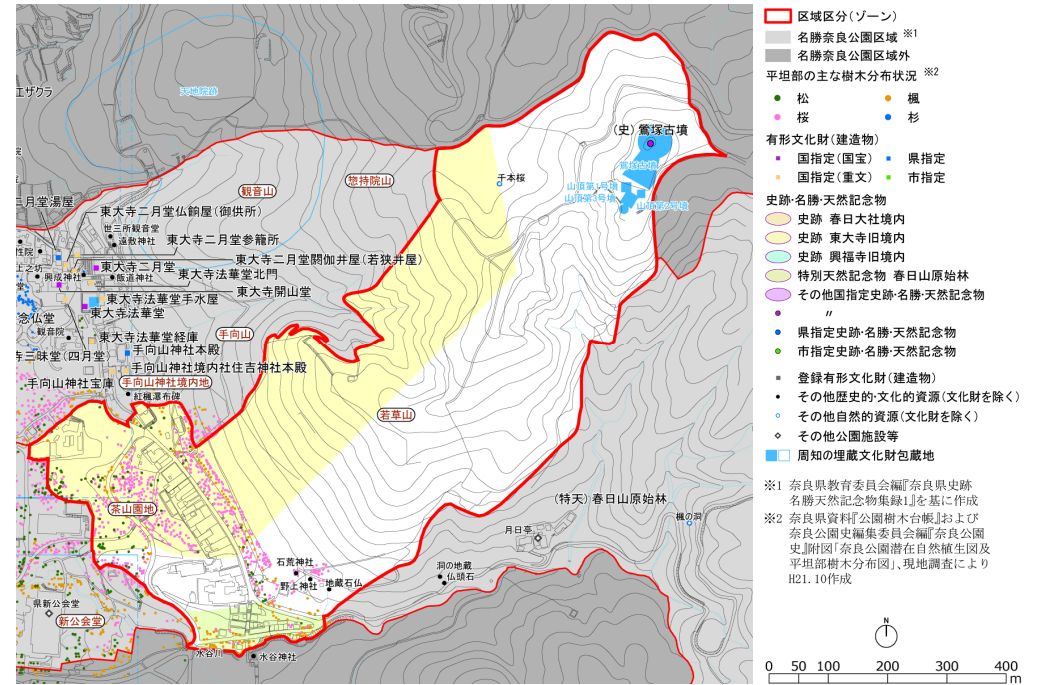
- 史跡東大寺旧境内に一部重複することから、遺跡・遺構等の現状保存を図るとともに、園地活用との調整に配慮する。
- 鶯塚古墳は、古墳時代の当地の歴史を伝える重要な要素として、その適切な保存を図る。
- 若草山山焼きは、当地の歴史・伝統を現在に伝える重要な要素であり、行催事の主たる場となる若草山一帯についてその継承のための適切な保存を図る。

公園的要素に関わる考え方

- 当地の景観を特徴づける松、桜、楓等の植栽樹木の適切な維持管理を図るとともに、公園の風致景観に配慮した整備・活用を図る。
- 茶山園地一帯は、若草山の山麓部の樹林地景観を構成する区域として、その地形および植生の維持のための適切な保全を図る。

その他要素に関わる考え方

- 若草山山麓の店舗等は、公園開設以前より若草山の景観形成・保全に配慮してきた地域として、地元地域活動との連携のもと名勝奈良公園の修景のための保存管理の推進を図る。



区分	本質的価値を構成する要素	
地形・地割	地形	●山地(若草山)
	地割等	◎東大寺境内地(史跡東大寺旧境内)および伽藍配置 ○園地(若草山、茶山園地)
水系	流れ	●◎水谷川
植栽・植生	植栽	○若草山麓、茶山園地の植栽樹木(松、桜、楓) ○水谷川沿いの植栽樹木(楓)
	植生	●若草山の自然植生(山腹の芝地を含む) ●原始林入口部の自然植生 ○茶山園地の樹林地
建築物・工作物	建築物	—
	工作物	○園路(若草山麓)
遺跡・遺構	埋蔵遺構	◎東大寺旧境内地遺構(史跡東大寺旧境内)
	古墳	◎史跡鶯塚古墳
動物(奈良のシカを除く)		—
行催事の場の形成		◎若草山山焼き(若草山腹、野上神社)
その他本質的価値を構成する要素と密接に関わる要素		◎祠等(野上神社、石荒神社、地藏石仏) ◇若草山麓周辺(雑司町及び春日野町)
関係する法制度等		・歴史的風土特別保存地区 第1種風致地区 ・歴史拠点景観区域(奈良市景観計画)



参考資料3) 観光客数の推移

○ 若草山の入山者数はピーク時に比べ1/4程度まで落ち込んでおり、若草山のにぎわいづくりを進め、さらなる魅力の向上に努めるとともに、地域の活性化が必要である。 ※ ピーク時：約47万人(S59頃)→約12万人(現在)

